

第9回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和57年8月18日（水）
午後2時～2時30分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和58年度における宇宙開発関
係経費の見積り方針について
4. 資 料
委9-1 第8回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）
委9-2 昭和58年度における宇宙開発関
係経費の見積り方針（案）

委 9-1

第 8 回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨 （案）

1. 日 時 昭和 57 年 8 月 4 日（水）
午後 2 時～3 時 20 分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 第一部会の審議結果について
4. 資 料

委 8-1 第 7 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

委 8-2 宇宙開発委員会第一部会報告書

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

説明者

宇宙開発委員会第一部会長

“ 第一部会衛星系分科会長

“ “ 輸送系分科会長

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

“ 宇宙科学研究所研究協力課

通商産業省機械情報産業局次長

運輸大臣官房審議官

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

中 口 博

野 村 民 也

武 田 峻

加 藤 泰 丸

辻 栄 一

植 木 浩

（代理：矢野）

秋 元 春 雄

石 井 賢 吾

（代理：古市）

小 林 哲 一

（代理：千田）

運輸省気象庁総務部長

“ 海上保安庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

宇宙開発事業団システム計画部計画課
事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

“ “ 宇宙国際課長

“ “ 宇宙開発課長

栗 山 昌 久

（代理：里見）

櫻 井 勇

（代理：山川）

高 橋 幸 男

（代理：立野）

向 井 正

吉 村 晴 光

中津川 英 雄

吉 野 隆 治

他

6. 議 事

(1) 委員長代理の指名の報告

吉識委員が、中川委員長より、委員長代理に指名された旨、
加藤研究調整局長から報告があつた。

(2) 前回議事要旨の確認

第 7 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案（資料委 8-1）が確認された。

(3) 第一部会の審議結果について

中口 博 第一部会長より、第一部会の審議結果について、
資料委 8-2 に基づき説明が行われた。その際、野村民也 衛
星系分科会長、武田 峻 輸送系分科会長及び 中口 博 第
一部会長より以下の補足説明が行われた。

野村：地球資源衛星 1 号（ERS-1）については、本年度に開発
研究に着手できなかつたので、打上げ目標年度を昨年の審議結
果より 1 年遅らせた。航空・海上技術衛星（AMES）につい

ては、技術試験衛星V型（E T S - V）と統合し、E T S - Vに移動体通信実験用の機器を搭載することとした。

その他については、要望どうりであるが、通信衛星3号（C S - 3）及び放送衛星3号（B S - 3）については、利用者機関より経費負担の軽減について要望があつた。

武田：要望どおりで妥当であるとの結論となつた。なお、①N - II ロケットの予備機は要求しない、②H - I ロケット用射点は、新設の予定であつたが、N射点の改修で対処するよう改める、③H - I 3段式試験機用フェアリングは国産の予定であつたが、研究が予定どおり進んでいないので、購入で対処する等要望事項ではないが、昨年の審議の際の考え方を変更する点についても審議した。

また、M - 3 S II ロケットの従来の公称能力では第12号科学衛星（E X O S - D）の打上げができないこととなるが、この点については、同ロケットの打上げ能力の再評価を行つた結果、打上げは可能と判断された。

中口：放送衛星3号（B S - 3）については、利用者機関から経費負担の軽減等を要望する発言があつた。

昭和58年度における宇宙開発関係経費
の見積り方針（案）

昭和57年8月18日
宇宙開発委員会 決定

昭和58年度における宇宙開発関係経費の見積りは、下記の方針に基づいて行う。

1. 開 発

- (1) 地球磁気圏におけるオーロラ粒子の加速機構及びオーロラ発光現象等の精密観測を行うことを目的とする第12号科学衛星（EXOS-D）について、M-3SIIロケットにより、昭和63年度に近地点高度約400km、遠地点高度約10,000kmの長楕円準極軌道に打ち上げることを目標に開発を行う。
- (2) 通信衛星2号（CS-2）による通信サービスを継続し、また、増大かつ多様化する通信需要に対処するとともに、通信衛星に関する技術の開発を進めることを目的とする通信衛星3号（CS-3）について、H-Iロケットにより、本機を昭和62年度に、予備機を昭和63年度に静止軌道に打ち上げることを目標に開発を行う。
- (3) スペースシャトルに我が国の科学技術者が搭乗し、宇宙空間の特性を利用した材料実験等を行うことを目的とする第一次材料実験（FMPT）について、昭和62年度に実施することを目標に、実験システムの開発を行うとともに搭乗科学技術者の募集及び選抜を行う。
- (4) H-Iロケット（3段式）試験機の性能を確認するとともに、

静止三軸衛星バスの基盤技術を確立し、次期実用衛星開発に必要な自主技術の蓄積を図り、併せて、航空機の太平洋域の洋上管制、船舶の通信・航行援助・捜索救難等のための移動体通信実験を行うことを目的とする技術試験衛星V型（ETS-V）について、昭和62年度に静止軌道に打ち上げることを目標に開発を行う。

- (5) 重量約550kgの静止衛星打上げ能力を有するH-Iロケットの2段式試験機について、昭和60年度に打ち上げることを目標に、引き続き開発を進める。この試験機に搭載するペイロードに測地衛星1号（GS-1）の開発研究の成果を生かして、測地実験に供し得る機能を付与するとともに、この試験機に搭載するペイロードを関係機関の要望に対応して各種実験に供する。

また、予備用H-Iロケット（2段式）試験機について、昭和61年度に打ち上げられるよう開発を行う。

- (6) H-Iロケット（3段式）の性能を確認するとともに、技術試験衛星V型（ETS-V）を打ち上げるためのH-Iロケット（3段式）試験機について、昭和62年度に打ち上げることを目標に開発を行う。

2. 開発研究

- (1) 能動型観測技術の確立を図るとともに、資源探査を主目的に、国土調査、農林漁業、環境保全、防災、沿岸域監視等の観測を行うことを目的とする地球資源衛星1号（ERS-1）について、H-Iロケット（2段式）により打ち上げることを目標に開発研究を行う。

特に、合成開口レーダその他のセンサーについては、積極的に研究を進める。

- (2) 放送衛星 2 号 (BS-2) による放送サービスを継続し、また、増大かつ多様化する放送需要に対処するとともに、放送衛星に関する技術の開発を進めることを目的とする放送衛星 3 号 (BS-3) について、静止軌道に打ち上げることを目標に開発研究を行う。
- また、打上げ機として、H-I ロケットを使用することを基本として衛星の諸元の検討を進める。

3. 研 究

- (1) 人工衛星共通技術に係る自主技術の強化と人工衛星の機能、性能の向上を図るため、二液式統合推進系の研究を行う。
- (2) 昭和 60 年代後半の大型人工衛星打上げ需要に対応するため、H-I ロケットの開発成果を生かして、その打上げ能力の向上を図るための研究を行う。
- (3) 米国で検討されている宇宙基地計画への参加について検討するため、所要の調査研究を行う。

4. その他の施策

- (1) 人工衛星技術の開発に資するとともに、実利用に供することを目的とする人工衛星の開発に当たっては、信頼性の向上及び利用者機関の経費負担の軽減を図る。
- (2) 昭和 58 年度に計画されている放送衛星 2 号 (BS-2) の打上げに万一失敗した場合に備え、利用者機関の立場に配慮しつつ適切な対応措置を講ずる。

5. その他

上記以外については、「宇宙開発計画」(昭和 57 年 3 月 17 日決定)を推進する。